

米国 高水準で推移しており製造業部門の堅調持続(10年12月ISM製造業景気指数)

発表日：2011年1月3日（月）

～製造業部門は世界的に堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数 は57.0と前月比0.4% ポイント上昇

12月のISM製造業景気指数は、57.0と前月比0.4%ポイント上昇し、市場予想通りとなった。拡大縮小の分岐点である50を18ヵ月連続で上回っているうえ、依然高い水準を保っていることから、米国製造業部門の減速は緩やかなものにとどまり、堅調さを維持していると判断される。製造業部門はドル安や好調な新興国経済等による輸出の増加に加えて、国内需要の緩やかな拡大に下支えされている。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、在庫（前月比▲1.0%ポイント）、雇用（同▲0.4%ポイント）、入荷遅延（同▲0.3%ポイント）が押し下げ寄与となった一方、生産（同+1.1%ポイント）、新規受注（同+0.9%ポイント）が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+0.4%ポイント上昇した。さらに、拡大した業種数は11業種（前月10業種）と増加している。

予想通りだった同統計発表直後の市場の反応をみると、株価は発表前から上昇していたこともあり反応薄、10年債利回りは直前まで上昇していたが低下に転じた。為替市場ではドルは対円、対ユーロで強含んだものの一時的な動きとなった。

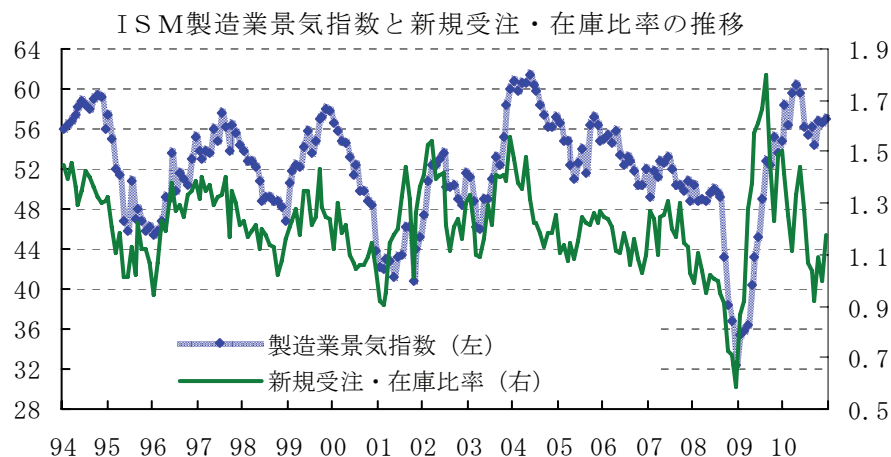
ISM (the Institute for Supply Management) の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5
10/02	56.5	59.5	58.4	56.1	47.3	61.1	61.0	67.0	56.5	56.0
10/03	59.6	61.5	61.1	55.1	55.3	64.9	58.0	75.0	61.5	57.0
10/04	60.4	65.7	66.9	58.5	49.4	61.3	57.5	78.0	61.0	58.0
10/05	59.7	65.7	66.6	59.8	45.6	61.0	59.5	77.5	62.0	56.5
10/06	56.2	58.5	61.4	57.8	45.8	57.3	57.0	57.0	56.0	56.5
10/07	55.5	53.5	57.0	58.6	50.2	58.3	54.5	57.5	56.5	52.5
10/08	56.3	53.1	59.9	60.4	51.4	56.6	51.5	61.5	55.5	56.5
10/09	54.4	51.1	56.5	56.5	55.6	52.3	46.5	70.5	54.5	56.5
10/10	56.9	58.9	62.7	57.7	53.9	51.2	46.0	71.0	60.5	51.5
10/11	56.6	56.6	55.0	57.5	56.7	57.2	46.0	69.5	57.0	53.0
10/12	57.0	60.9	60.7	55.7	51.8	55.9	47.0	72.5	54.5	50.5

ISM製造業景気指数は 11年前半にかけて緩や かな低下傾向を辿る公算

今後に関しては、景気対策効果の息切れや、在庫復元の一巡、ハイテク循環のピークアウト等による生産活動の鈍化傾向によってISM製造業景気指数は低下するものの、世界的な景気拡大の持続により、緩やかなものになると見込まれる。期間は、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が09年8月のピーク以降1年にわたり低下していることから、2011年前半にかけて低下傾向を辿ることが示唆されている。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

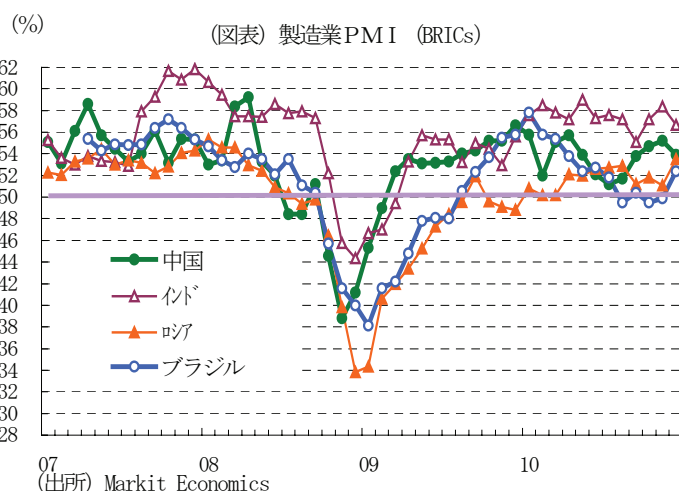
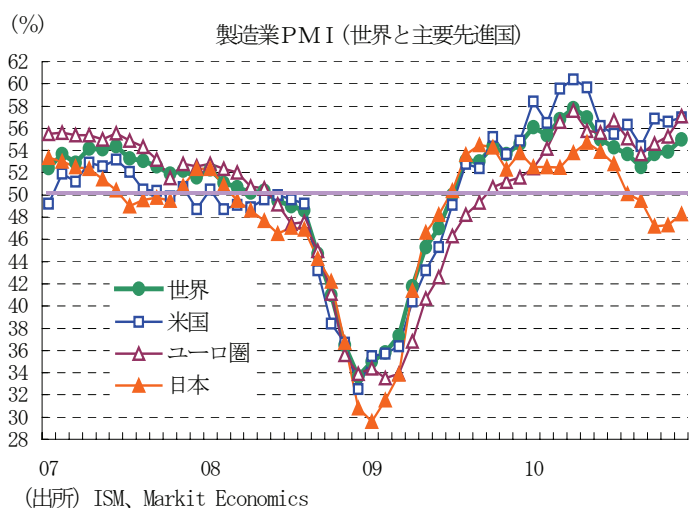


12月の世界製造業景気 指数は前月から上昇し 堅調さを維持

輸出受注D Iが12月に54.5と前月比で2.5%ポイント低下したが、拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回っており、ドル安の進展、新興国などの好調等によって、米国輸出の増加傾向が維持されることを示唆している。

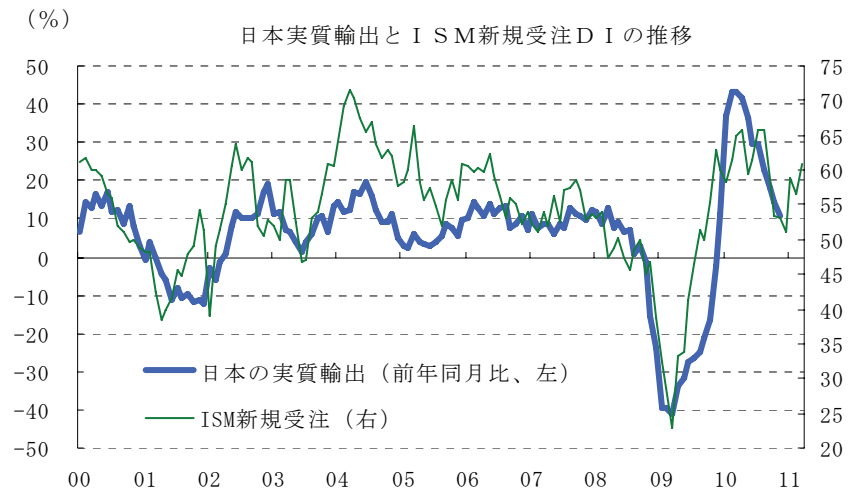
12月の各国の製造業景気指数をみると、全体として堅調さを維持している。先進国では、ユーロ圏は前月比上昇し15ヵ月連続で50を上回った一方、日本は前月比で上昇も50を4ヶ月連続で下回り製造業部門の縮小が示されている。他方、韓国、台湾は前月から上昇し50を上回った。さらに、BRICsでは中国、インドが前月比で低下したものの、ロシア、ブラジルが前月比で上昇した。前月比で低下した中国、インドも高い水準を維持しており、製造業部門の好調さが示されている。

これらの結果から、各国の数値を合成した世界製造業景気指数は12月に55.0（前月53.9）と前月から上昇しており、世界的な製造業部門の堅調持続が示されている。



各国の米国向け輸出の 拡大ペースは11年に 再拡大の可能性

遅れて動く傾向がある輸入D Iが12月に50.5と前月比2.5%ポイント低下したが、輸入の拡大を示唆している。また、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注D Iが60.9と上昇し高い水準を維持していることから、日本を含む先進各国やBRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、11年に再び加速することが示唆されている。



雇用D Iは55.7と製造業雇用の小幅減少を示唆

雇用D Iが55.7と前月比1.8%ポイント低下しており、製造業雇用者数（3ヵ月移動平均）は小幅減少すると見込まれる。価格競争の激化の中でコスト削減圧力が強く、今後も製造業部門での雇用の大幅な増加は期待できない。

仕入価格D Iは72.5と川中でのインフレ圧力は再び強まりつつある

仕入価格D Iは、72.5と前月比3.0%ポイント上昇した。潤沢な流動性、二番底懸念の後退などを受けた商品価格の上昇によって川中でのインフレ圧力が強まりつつある。企業収益を圧迫するとみられ、企業は今後コスト削減圧力をさらに強めることが予想される。

